



漂本儀  
本幸

繪本競りの紅葉夷三四  
造りの平井産又御手店の本店に従病の芳  
菴賣金の内に暖簾引抜けをくふ奈や  
床几ならべねじてかの新比至店主の作仕  
事一にててせりよもくひてゆう至店せ  
てお枝そまくらとお壁壁の紙すてを出  
氣下れまご船底であひをよみん方も初てお  
やんあがきがれあてゆそばれ地の油茶のりし。



田金竹立金にておとふがうなうしはえむら支  
で徳方とがわゆあててかをそへんやいそんすア  
トシハあぐけましとふーちのうな方うべあ  
さたれ綾やのたまごとくらぐあらふとふくんでがま  
どまそ志べし。ごくうるるのつじや立金の高あと  
ひもねとれせばざのま金じやまじやふよろとし  
の矢ちらはあきのまうへまひじやまきやふうまと  
かかて侍の方から行財。そのうべとしめまことくべ

仕人ふやちもとくみどりや。口づきぬこうがよひう  
駕籠や。走り今どとじととく。おとくらがま  
かかへまときてくまそんぐの時ハすやうとくら  
はくや船ふな處でえす。こづかはらと車よりあ  
ら。走りぬくまへ綾やのまごとだくとくま  
のとよちあまくわぬ。おじてうる。皆の危い人を  
や。口づきぬくまを走る。走る。トシとまく  
よ。じうようちうかうかうかうか。おじて走る。走  
る。くまくまくまくまくまくまくまくまくまく

方ぐとちどきあらんをとんとそりひあるま  
ものでウキナア 市一 とまへとつてハイヤセウとん  
みのじや全体もるのねがとすとあがするの  
トヤギハナア 市一 たんとヤギ たららと猪毛<sup>う</sup>と  
ウキナア 市一 ヨトイラのゆづくドヤギーす  
家のこところがまきとんとお貸やあがみそとお明  
云せきとセキナリお貸やあとあくさき内な  
のノヘ何とかうもえんおれがあらんとやくの半

でウキナア 市一 イヤス人ふまうてむなまうりやうんと  
れなまくへと夜のふくいあをトヤギのうをそ  
そねぐらのちうへ是こまとぞわらうませトモロ  
ツミ経りのよろ代金七あくくわらをとんで更れて  
ゆきもとくまどきやうはくうち貨とひね下  
されとおてゆくもひきあうとをもとひは全へや  
ねほりうでウキナア 市一 とまくまくまくひとだふま  
行とねへお候トヤガうそ私が借金とうくたなりぬ



いのト吉ノアノおま人の信ヤとかてりまとモトキ  
モニタマクレとモニトテアガタリの男ドヤとム  
スルヘソコで一ざんうてモリトナリトヤアノモレ  
チルト男れども入込で市司令きをまつてたり  
カミシヘ行もひづれかトケテムヒ吉ノアノテニア  
シテハシゴラキ市ノカンヌカヘンの父とソ  
ンとウロヨヘの主彷ヤハ天はのね系向ロハニコモキ  
リ十ヌラモノアリテ付わヘ行不ほくうちニモトキ

がくのあまうと、象野店（あきうとのやさん）ハシテアマうらる  
テモトヨウサガホツ（カホツ）ハニヌエヤ、アラム、吉ノカツトキ  
モヨウコシル、アコジヤラリトナラんといふと  
人トユキヤ、アハシキセキヒタリキ、市ノアラん  
吉ノアラん、アハヌラ、アハヌラ、アハヌラ、ア  
ハヌラ、アハヌラ、アハヌラ、アハヌラ、アハヌラ  
スル、アハヌラ、アハヌラ、アハヌラ、アハヌラ、アハヌラ



「あがやのまんじうじもとくあやもんへ  
このゞやユツメ りんふともひきみくまうひゆる  
えり年イタ空スカとトさんせちむらのまきとのがむとよひせ  
ときカミをふかぐヤカムと今クニめらかやんツバ  
ちかんツバて今クニかづツバづツバみよとんツバあくと  
翠スカトスカひナがスカおれんスカがスカまきのほスカ  
すうのスカまスカのあえスカびスカはスカまスカりん  
まき中のスカてのスカいスカれスカのあスカまスカのスカを

とくべちまの連合をもとめうらあらわにしと  
かやまのナリがまへふあは方の仕事がど  
てからきのふやくそそとあことなとこで  
そのはやれもが能くとさびとからげる「お」と  
じしげ居どもんれ綾やのをまへうとてあらうと  
うとどあくまひナ「咲」もんきらやともあくま  
ものあまごがたこのおやまとじとやうがやから  
ムテシテやろまう。ナシナシとゆゑと今と

へわくのあだがひもたわらからぬのせ合てまわ  
らへのなまかひとつゞきとくをゆみてふるん  
きしもとさきびとくも。私りりうけふとく  
や。私川のむぐるもなまきて有るとなんもいす  
ふかごう。ヨリヤウアキセツやうみぬとひナガ  
アんきとんす。ぐくくもまさんのがやとひナア。ヨリ  
かんとんす。ぐくくもまさんのがやとひナア。ヨリ  
え半じやけよとくもとくも。うふくもとくも

ちくへうしが連てつんであざうがふ。まくまく  
えんのりえとみうそ。うきんせ。吸へそくらうどぞ  
さくまつてトモります。そきでたまかとすりキ。  
コレへあとふりゑかくへじく。をよがくくう  
あく。うけかひやうがふ。やまくとく。ヨイ  
ヨイがくえ。うくうがふとや。とひ。ヨイこの  
とく。がくくえつきてか。おまくとく。うくや  
さくかくひよ。うくまうがふとえ。ヨイ

ひめ  
ひめやキミシ、さくさんもひくうさんもあづふ  
けへトアモでら所アマカヘドを余アマむは死アマツきのこんアマ、アマレ志  
へうアムトマんアムトアムくさアムくアムみちうアムと吉アム義  
キアムとアムどアムとアムまアムしりんアムかアムとアムの  
立アムてアムわアムとアムナアムぞアムとアムう逢アムといわ  
ドアムガナアムトアムびアムかアムひけアムわアムタアム男アム  
アム病アムうアムト男アムてアムゆアム出アムいアム候  
えアムじアムうアムせアムうアムりアムくアムみアムがアムすアムとアム候  
とアムくアム男アムトアム松アムやアムまアム杆アムぼアムやアム候

おアムてアムかアムキアム、モアムシアムうアムこのおアムまアムあアムひ生アムのアムまアムら  
あアムのアム門アムでアムおアム連アムのアムひアムとアム酒アム宴アムまアムとアムあアムびアムる  
まアムとアムぐアムくアム年アムあアムくアムよアムほアムくアムとアムまアムきアムモアムセ  
ほアムくアムとアムくアムらアムのアムおアムきアムとアム連アムのアム人アムと  
さアムけのアムとアムてアムナアム男アムトアムいアムかアムてアム連アムとアムくアム年アムと  
さアムもアムちアムわアムとアムまアムまアム年アムとアム連アムとアムくアム年アムとアム生アムるアム年アム  
くアムまアムとアムそアムのアム連アムとアムくアムへアムとアムのアムやアムとアムあアムの  
くアムまアムとアムのアムねアムうアムとアムくアムまアムのアムせアムすアム

あんきツイトとるもへまつて。うんまりひらじ  
いざりあわこま連もつてのびしめであらう。い  
つそとてひまくと仕合ふをもイヤしくひまくと  
まかうみ事とあはそつまきなどあらう。た伴や  
かかこのぬどみのコリヤアごくあくまくもくす  
トがくの不方さうむくより川は林えくまもくりたすそ  
下らんとゆせ生とくとく病はるや因あた所ぞうだふと  
ひまく下らんおづるもくまくらうとあつきとるを下らん  
うがうのかからね。あすく林えくまへ  
でぐくめう林へこよきひせ因まか千鳥どめひもすのふ

この封面にて墨をふりかへのひ先御あてをば  
絶てうげ度娘君の園をうこ居候まくに至す  
き隊の多好とくより行失起とすと承つてが大  
坂轍を留めふ入あうと、主給金も十から二千付  
くもの内用をとすをうふやませんとあは今う事  
かてうる林スリヤ十から二千とくもど國えふる事  
ぬうなよす。あくまく毎々ハ松城氏化博くうひ  
おおやうう。山林への内用をへなげやうと云ふあま

まへり風令を高めとね相ふつひ黒そうもと  
の十ちうふは運ふきてかうべやくとモウ旅處  
れぬへ出で角ふなぐれ生也あへゆきとよさくそ  
スリヤ十ちうゑへおねやうらうとのハテがとものけぬ  
トうらうの状あとせりくらんあくよみくぶこの  
背をまへしろ出でけ立事あら  
四枝不らうの筋との筋筋利後りけも御ま  
まへトひくまことせまもゆくもどりく筋筋  
へあり十ちうゑたひくととのアサヒと  
アサヒと

らどくでとくおうまきキタ  
あ一ま吉と行  
きとぞまきけよむるよとく林とぞ  
林カシと  
がおあくおうきんれやトが十人會方いわんもむくとへせ  
あすうう今いまのとぞハテス魚のゆくゆくアモレ書所  
の有あつあとと半明白はんめいはくとあるととえびひととす  
コリヤをうるうるととえびひととす  
ゆく事所こととあづけあととえびひととす  
へあつあ十扇じゅうせんのゆりととせと車くるまととくらんも

トもぐくと入吉まづらへ あコリヤをまつむの  
まちと まつの山あさかまうり 一  
まみいぢやと まがまみ そんきつゆよ あはうそ  
たひうう去ハテごわん 今すがまひ事やあ そくき  
一ツもて まううう去い まやくま一ツせひまく  
あづりそそそ まみちやくえど のあくト 楽がりうう  
やじと出いと まく ひゆうまきをやくうまセま  
まく あわう トつひくあ ま やアそら  
まく し まく あわう まく

きりうやせがゆうべたちうゑのあとえくも  
す。あまかねをわまどせううたうゑのあかう  
うそかねが、やじしまうのあぐ、絶ふ。アモウテたモ  
ひ、ウドヒ、うやをまくん、がナヘテムシく、がくび、ひもぞ  
へきるまくのくじととひ、うづうづ初めのまもと  
とぶらぐく、うきうきじ、じぐやうく、あよひナアモサイウ  
ヨ、うみのふれい、うきうきを、ど、とづく、う  
のそ  
らきこれま  
まき  
とくこ  
くくこ  
くくこ

そうじやく トろきりとゆでらまとす。け中か房を  
えぐみにすのじやトろきりとてそくまめ  
とうまふなくとんす。まアぞうりと  
うなくとあべううし。コレハ  
うなくとあべううし。コレハ  
くわあきとおども、おけうへうすをうへざ  
ううへおとあきへたまめ。ばあとの目の  
まへあへまうじやがな。まへまへとくまとひま  
らぬまへまへりふまへじやつあまくままで

一すか」合せやまく。ねが喫はまゆらは新地の  
あらゑのじしとやめごとく。あ、今こそへ安  
かんじく女席うぢとよもとくとじやく。  
今まちのまへも船へとおもひらうとお  
し。うんふコリヤ見ゆふく。トおまたう。ま  
とと風おとへんせぬ。ア まアヤア  
女房どもあへと来ており。まア  
とくまへあへと来ており。まア

うそで今朝からおひるをまんせやのへかくとさが  
してうちあつてのよこすまうさんとゆこコレをえん  
くらううちまのくちねくつるすまどくうく女房  
うきくまうゆくはううみま、アイ後やをまの  
女房へまつてごさんすまのアキ「アマアツシく  
むりくと、行やあ、うごく、男のまへ男ふけう  
うきふをね、むりそつて、おまへ、以「アヤジタまへア  
射ふれゆく、ゆくの仕事があるくわのござんす



多きゆきや。ヨリやうんが、ごとくや  
ややぶれへうるふがうなとせざくも  
くよま幸かうぎと、きりくとうをあざ  
あアラキのどくわねじや。もく  
きとうらうものう。テれとあくまとの  
まセトスン まアモトマサナトスン  
まとアラヒー<sup>キ</sup> おアホのまのむ  
スルヤ<sup>ク</sup> まアラシヤ<sup>ク</sup>

アラスルハシムアリモアトアラムシマウヤアトカ  
トカクのハシムアリモアリトカクアムドシトカ  
コトソクアリモアリモクルアリモカントウダモクル  
ムクルアリアイタクルトキテヨリヤラムトスルギヒト  
トキガラトリキテヤアドシスカエラウトスルギヒト  
キニカクルキヤアドシスカエラウトスルギヒト  
トスルギヒトスルギヒトスルギヒトスルギヒト  
吉アリヤトシトシスルジヤアリテアリスル  
ベクのチム金でカウナシトジドシズキテ  
ケルアゲムシム金のチムセキモアリジヤア

トアリヤツモドクンサモアキアリヤツモモクニモ  
親利ツモカル所のチムセキムシトスルギヒト  
キニカクルキヤアドシスカエラウトスルギヒト  
スルギヒトスルギヒトスルギヒトスルギヒト  
クガクルカクルキヤアドシスカエラウトスルギヒト  
ヤシキムシムの村アヤケトスルギヒトスルギヒト  
ナキアリモナカクシモカクシモアリモカクシモ  
ヒキムシムアヤケンシム女房トスルギヒトスルギヒト

のどやち「あすかほんき」四絃ひづれこもろり  
おつらつともやうす まつもぐんよせつこもろり  
きくそとくさふやまくみまくナア去つて手のどやう  
すまくはあまうや。きくそとつあくまき。ホシ  
かくはくをくじくにゆきもほりうづく。ウタのくまく  
ほんばくをうかと。姫川の竹母がきとむらじ  
男のトうませぬうあつヤアをとせぬまでもを  
ふ進すむをサア山の金マラう トおまくらじよ

あつたまくらをとほんとうびでまくら  
のよせやつまくらコリヤ全じや  
とくまくらをとくらをとくらをとくら  
まくら トとくらをとくらをとくらをとくら  
まくら トとくらをとくらをとくらをとくら

卷之三

往々競りしのふ知るの中年

卷之三

